



だれのこころのなかにも、
ひとりの白痴が棲んでいる

ラーズ・フォン・トリアー

の 子 の 父 の 叫 び

1998年カンヌ国際映画祭コンペティション正式出品作品

監督・脚本 | ラーズ・フォン・トリアー

撮影 | ラーズ・フォン・トリアー・クリストファー・ニホルム・イェスパー・ヤギル・カスパー・ホルム 録音 | ペア・ストライト 編集 | モリー・ステンスゴー
音楽 | キム・クリステンセン プロデューサー | ヴィーベケ・ヴァネレウ エグゼクティブ・プロデューサー | ベーター・オールベック・イェンセン

モデル | ヨアンセン・イェンス・アルピヌス アンヌ・ルイーゼ・ハシング トレルス・リュビュー ニコライ・リー・コース ヘンリック・ブリッブ
ルイス・メゾネオ・ルイーゼ・ミエリッブ クヌズ・ローマー・ヨアンセン トリーネ・ミケルセン アンネ・グレーテ・ピアルブ・リース

A film by Lars Von Trier "THE IDIOTS" 1998年 | デンマーク映画 | 35mm | カラー | ヨーロピアンビスタ | 117分 | 配給 | スローラーナー



1998年カンヌ国際映画祭コンペティション正式出品作品 “イディオッツ” 監督+脚本 | ラース・フォン・トリアー 配給 | スローラーナー <http://www.slowlearner.co.jp/>

「あなたの心の中にも小さな白痴（イディオット）が棲んでいる…」幼い子供を失ったカレンは、“イディオッツ”に出会った。

“可哀そう”という言葉は、危険かもしれない。いっけん優しく聞こえるこの言葉で、すべてを片付けてしまうこと。何かを見ないようにすること。そんな人々の反応を挑発的なやり方で暴こうとするスタッフを中心に据えるグループ“イディオッツ”。幼い子供を失ったばかりのカレンは、その葬式の日、立ち寄ったレストランで彼らに偶然出会う。カレンは、なぜか彼らに惹かれ、そこに安住の場所を見いだした。彼女の胸の中にもまた小さな“白痴（イディオット）”が棲んでいたのだ…。

だけでなく優しく勇気ある本物の“白痴”たちも参加した現場は、“現実とフィクションの出会い”であったとトリアー監督は回想している。製作現場は何度も中断し、現実とフィクションの垣根を失った俳優たちはお互いの役名さえ思い出せず、本名を呼び合い始めたほどだった。

ビョーク主演『ダンサー・イン・ザ・ダーク』でカンヌを制したラース・フォン・トリアー監督の幻の傑作が、今、封印を解かれる。

“役立たず”への親愛に満ちた傑作がいよいよ公開される。監督は、『ダンサー・イン・ザ・ダーク』がカンヌ映画祭でグランプリを獲得したラース・フォン・トリアー。シナリオは4日で書き上げられ、この作品は手持ちのデジタルカメラで撮影された。即興を重視した演出と、俳優たち

だけでなく優しく勇気ある本物の“白痴”たちも参加した現場は、“現実とフィクションの出会い”であったとトリアー監督は回想している。製作現場は何度も中断し、現実とフィクションの垣根を失った俳優たちはお互いの役名さえ思い出せず、本名を呼び合い始めたほどだった。

エキセントリックな挑発の底からあらわれるピュアな魂 トリアー監督の最も優しくて残酷なファンタジー

この作品は、見るものを困らせるかもしれない。しっちゃんいけないうこと、しなくちゃんいけないうこと。守ることと守られること。優しさとは何か？ 当たり前だと思っていた考え方はいつしか覆され、観客は、深くえぐられた現実と直面することになるだろう。しかし、この作品は、

決してスキャンダラスな作品ではない。トリアー監督は、ある意味残酷で悪意に満ちた挑発、エキセントリックな行動、グループの挑発に触れた人々の混乱の底から、ありったけの力を込めて“白痴”たちを抱きしめるのだ。

溢れる涙、あまりにも不器用なラブシーン、見つけ出した安息の場所…。そして、サン・サーンスの“白鳥”の切なくも幸福なメロディーが流れる。

これは、ファンタジーなのだ。もっともピュアなトリアー監督の感情を描いた、そして最も優しくて残酷なファンタジー。ジュペとジョセフィンのあまりにも不器用なラブシーン。スザンヌの目からいつしかあふれ出す涙。そんな、トリアー監督の“役立たずたち”にたいする

愛おしさが、ピアノで演奏されたサン・サーンスの『動物の謝肉祭』“白鳥”の切なくどこか幸福なメロディーに結晶している。

セーレン・クラウ・ヤコブセン監督『MIFUNE - ミフネ-』、ハーモニー・コリン監督『ジュリアン』そして、『イディオッツ』。映画の新しい可能性を“ドグマ95”が切り開く。

『セレブレーション』『MIFUNE- ミフネ-』、そしてハーモニー・コリン監督の『ジュリアン』もまた、その2番目の作品として製作されながら、日本での公開が封印され、生み出したドグマ95。95年にトリアー監督が立ち上げた、慣習的な映画の作り方に対する挑戦状ともいえる10の誓いを持ったこのプロジェクトは、次々に映画の新しい可能性を切り拓いていく。そして、その2番目の作品として製作されながら、日本での公開が封印されていた『イディオッツ』がいよいよ公開される！

ラース・フォン・トリアーと『イディオッツ』の 関連図

カール・テオドル・ドライヤー
オーソン・ウェルズ
アルフレッド・ヒッチコック
アンドレイ・タルコフスキー
トリアー監督がリスペクトする監督たち

トム・ヨーク(ミュージシャン)
『ダンサー・イン・ザ・ダーク』の
サウンドラでデュエット。

サン・サーンス(作曲家)
『イディオッツ』で『動物の謝肉祭』
の“白鳥”を使用

ビョーク(ミュージシャン)
『ダンサー・イン・ザ・ダーク』に
主演。

クロエ・セグニー(女優)
ハーモニーのパートナーであり、
『ガンモ』『ジュリアン』に出演。

ハーモニー・コリン(映画監督)
ドグマ95で『ジュリアン』を監督

エディ・コンスタンチヌ主演
『アルファヴィル』『新ドイツ零年』監督
ジャン・リュック・ゴダール(映画監督)

ジャン＝マルク・バル(俳優)
『ヨーロッパ』ほかに出演。
トリアー作品の常連。

『パンピ』
娘と観ていてトリアー監督は泣いてしまった。
「娘が生まれてからのセンチメンタルな感情を、
もう少し具体化させて映画に反映したいと思って」

エディ・コンスタンチヌ(俳優)
30年撮影予定の『ディメンション』に参加するも、
撮影途中で死去。

ウド・キア主演『悪魔のはらわた』製作
アンディ・ウォーホル(アーティスト)

8 = 00 - ウォルト・ディズニー



ラース・フォン・トリアー(『イディオッツ』監督)

ウド・キア(俳優)
『キングダム』など
トリアー作品の常連

究極の問題作・遂に日本公開決定

6.23.sat. - 7.06.fri. / レイトショー (時間は劇場にお問い合わせ下さい)

心斎橋アメリカ村 BIG STEP 4F パラダイスシネマ 06(6282)1460・前売券発売中 劇場窓口・ぴあ・ローソン・大阪市内プレイガイドにて (劇場窓口では先着50名様にタトゥーシール付)

R15